

日本の労働環境改善

2019-02-01

F2G5354 forest

目次

まえがき

1. 労働生産性の定義
2. 生産性の向上
 - 2.1. 生産性の向上
 - 2.2. 生産性向上の重要性
 - 2.3. 生産性向上へのアプローチ
3. 日本の労働環境
4. 海外の労働環境
5. 日本と海外の労働環境の差
6. 生産性向上の例
7. 生産性と労働環境の関係
8. 日本の労働環境の改善と生産性向上の両立
9. まとめ

謝辞

参考文献

まえがき

この論文では、労働生産性を中心に、日本の労働環境の改善点について、海外の例も参考にしながら論じ、生産性向上と労働環境の両立の観点から、どのような職場になれば労働者が自然とモチベーションを上げられる職場になるかについて考える。

1. 労働生産性の定義

労働生産性はさまざまな定義がある。ここでは二つを紹介し、(2)を採用する。

(1) wikipedia

まず、wikipedia を引用する [1]。

生産性（せいさんせい、Productivity）とは、経済学で生産活動に対する生産要素（労働・資本など）の寄与度、あるいは、資源から付加価値を産み出す際の効率の程度のことを指す。

(2) 伊賀泰代氏著作の書籍より引用 [10]

労働生産性について論じている伊賀 [10] によれば、生産性とは、得られた成果に対して、それを投入した資源で割ったもの、つまり、アウトプット÷インプットであると定義している [10]。

生産性	=	$\frac{\text{得られた成果}}{\text{投入した資源}}$	=	$\frac{\text{アウトプット}}{\text{インプット}}$
-----	---	---------------------------------------	---	--------------------------------------

2. 生産性の向上

2.1. 生産性の向上とは？

生産性を向上させるには、成果を増やしていくか、または投入する資源を減らせばよい [10]。

2.2. 生産性向上の重要性

生産性の向上が行われなければ、企業は少ない資金での短期的な会社のやりくりを迫られるから、成果を増やし企業の余裕を作ることが重要だ。

2.3. 生産性向上へのアプローチ

生産性向上へのアプローチとして4種類が挙げられる [10]。

- (1) 販売手法の工夫、作業手順の変更など(改善による成果拡大)
- (2) コスト削減(改善による投入資源削減)
- (3) 画期的な商品設計、斬新なビジネスモデル(革新による成果拡大)
- (4) ビジネスプロセスの再構築、国際分業など(革新による投入資源削減)

3. 日本の労働環境

日本で労働生産性が低い原因として、次の例が挙げられる[3]。

日本の労働環境の短所

- ・形骸化した労働基準法
- ・残業ありきの仕事量
- ・管理者が効率を求めようとしない
- ・縦社会の非効率性
- ・お役所化 etc

4. 海外の労働環境

欧米諸国の労働環境に目を向けると、次の例が挙げられる。

- 有休取得率 100%と休暇を大切にする仕事の仕方(ドイツ) [4]
- 1日の労働時間にシビアで、効率を求めない社員も経営者も無能と言われる。
(ドイツ) [4]
- 週 35 時間の労働時間や 1 か月の有給。(フランス) [7]
- どのくらい働くか自分で決められる一方で、限られた時間で仕事の成果を出さなくてはならないプレッシャー(デンマーク) [11]

5. 日本と海外の労働環境の差

ここで、日本と海外の労働環境の差について整理する[5]。

6. 生産性の向上に必要なもの

生産性の向上には、仕事が早く終わり、かつ社員のモチベーションが高いことが必要だ。

(1) 生産性が上げるには、仕事が早く終わればよい。

(2) 生産性を上げるには、社員のモチベーションを上げればよい。

これらから、生産性の向上に取り組むには、作業の生産性向上と、モチベーションの向上が同時に達成されなければならない。

主に経営者に求められる労働環境改善のための意識としては、次のものが考えられる。

- ・経営リーダーが効率性重視にもっと意識を持つこと
- ・時間より成果主義の制度づくり [5]
- ・制度づくりについて難しいものだと考えず、簡単でかならず役に立つものであると意識を転換すること [5]
- ・さらに欧州の労務状況に学んで適正な労働環境の確保をし、働きがいのある社会の実現が大事 [7]
- ・労働時間を縛るだけでは仕事量が増えるだけ！ 仕事密度が上がらないよう対策 [8]

7. 生産性と労働環境の関係

労働生産性を考えるうえで労働環境は重要だ。

8. 日本の労働環境の改善と生産性向上の両立

労働環境が整い、職場で労働者がした成果に見合う賃金が提示され、モチベーションが上がれば、それは労働生産性の向上に労働者自身も納得し、生産性向上に自然とつながっていくことだろう。[5]

9. まとめ

労働生産性を上げるためには、欧州のよいところを取り入れ、労働環境を改善して、労働生産性向上に自然とつながる職場づくりが大事だ。

今回論文を作成するにあたり、指導してくださった西村和夫先生、またこの論文作成にあたり、参考にさせていただきました文献の著者の方々に心から感謝申し上げます。

[1] 生産性 - Wikipedia (参照日 2019-01-29)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/生産性>

[2] 労働生産性 - 経営分析のススメ (参照日 2019-01-29)

<http://www.keieibunseki.com/seisan/index29.html>

[3] 勤勉だけでは改善できない日本の低い労働生産性 | ロッシェル・カッ
プ (参照日 2019-01-29)

http://www.huffingtonpost.jp/rochelle-kopp/labor-productivity_b_8865802.html

[4] 熊谷徹著, ドイツ人はなぜ、1年に150日休んでも仕事が回るのか,
青春出版社, 2015

[5] 松本順市著, 成果主義人事制度を作る, 鳥影社, 2003

[6] 2016.09.13 人事雑学 【全100選】生産性向上のための取り組みを... -
jinjer (参照日 2019-01-29)

<https://hcm-jinjer.com/media/contents/contents-2328/>

[7] そうだ、パリで働こう。-フランス人は残業しないって本当?現地で
聞 (参照日 2019-01-29)

<https://jp.stanby.com/media/lifein-paris2/>

[8] フランスは「週35時間労働」なのになぜ... (参照日 2019-01-29)

https://www.excite.co.jp/News/society_g/20180210/Myjitsu_041379.html

[9] 山本憲明著, 「仕事が速い人」と「仕事が遅い人」の習慣, 明日香出版社,
2013

[10] 伊賀泰代著, 生産性: マッキンゼーが組織と人材に求め続けるもの, ダイヤ
モンド社 2016

[11] 北欧での働き方って実際どうなの? あるデンマーク人のホンネとワタシ
の … (参照日 2019-01-29)

<https://hokuosunday.net/2017/08/24/1081>